

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 10月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0170200125		
法人名	社会福祉法人 百合の会		
事業所名	グループホーム オニオンコート		
所在地	札幌市北区百合が原11丁目186番地3 (電話) 011-774-6821		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年10月20日	評価確定日	平成21年11月6日

【情報提供票より】 (平成 21年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 18人、	非常勤 5人、 常勤換算 12.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	3階建ての	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,500円 生活保護35,000円 家族対応48,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費:21,000円 暖房費(11~3月):4,500円 貴重品管理費:500円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	2名	要介護2	1名
要介護3	10名	要介護4	3名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均 88歳	最低 78歳	最高 99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌百合の会病院 日之出歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム オニオンコート」は、母体の福祉施設と協力病院がある同一敷地内に立地している。近くには百合が原公園があり、利用者は頻繁に出かけている。運営者と管理者は脱施設化を図り、職員の育成と働きやすい環境を整えている。毎月社内研修が開催され、各委員会も設置されており運営の方針とマニュアル化で方向性を示している。利用者は母体福祉施設の喫茶、移動売店、クラブ活動に行き、合同行事やバスレクなどを楽しんでいる。訪問理美容、リハビリエステで身だしなみを整え、利用者は自分の思いを十分に伝え、職員は言葉遣いも丁寧で明るく笑顔で対応している。協力病院、母体福祉施設のサポートで安心したその人らしい暮らしが守られている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題として、「GH通信」に職員の異動なども載せて報告し、同業者間の交換研修の実現に向けて進行中である。夜間を想定した避難訓練に、利用者・家族、町内会の役員が参加して事業所独自の訓練を有意義に行っている。職員の休憩時間を調整し、利用者と一緒に食事を楽しむなど積極的に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員が評価表に記入したものを管理者がまとめ、全員で取り組んだ。自己評価、外部評価の結果は家族懇談会や運営推進会議に報告し、閲覧できるように事業所内に掲示している。職員は評価の意義を積極的に受け止め、昨年の取り組み事項も具体的に進めている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を2ヶ月ごとに開催し、家族の参加率も高い。利用者も状況に応じて参加することもある。ホームの行事や利用者の状況を報告し、運営についても意見を求めている。3月の夜間を想定した避難訓練に家族も参加し、その検証で出された家族の意見を取り入れ、実際に避難器具を使用した訓練を行い確認している。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「GH通信」を年に4回発行し行事などを報告しているが、個人宛の簡単なお便りの工夫も考えている。年に1~2回の家族懇談会に家族だけで話し合う場を設けている。アンケート用紙も常時用意しているがあまり活用されていないので、収集の方法を検討しているところである。「要望記録」に家族の意見などを記録し、それらを職員間で共有している。また苦情などは会議で対応を検討し改善に取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の事情があり町内会に加入はしていないが、行事案内の情報を交換し住民との交流を図っている。近くにある幼稚園や小学校とは行事を通して相互に行き来している。1階にある託児所の行事に頻繁に参加し、子供との交流を楽しみにしている。また法人事業所が合同で主催する盆踊りに住民の参加もある。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念に沿った事業所独自の理念があり、安らぎのある、自分らしく生き甲斐のある、家庭的であたたかみのある、安心・安全な暮らしがある、などを分かりやすくあげている。地域住民との交流の下で実現することを明記し、利用者の生活を支えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月間目標や事業計画に、法人理念と事業所理念を明記し周知している。ユニット間のエレベーターホールや事務所に掲示し、会議で唱和している。職員が理念を身近に意識できるような方法も考えているところである。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の事情があり町内会に加入はしていないが、行事案内の情報を交換し住民との交流を図っている。近くにある幼稚園や小学校とは行事を通して相互に行き来している。1階にある託児所の行事に頻繁に参加し、子供との交流を楽しみにしている。また法人事業所が合同で主催する盆踊りに住民の参加もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の自己評価を参考に、全員が評価表に記入し、管理者がまとめた。自己評価、外部評価の結果は家族懇談会や運営推進会議に報告し、閲覧できるように事業所内に掲示している。職員は評価の意義を積極的に受け止め、昨年の取り組み事項も具体的に進めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに会議を開催し、家族の参加率も高い。利用者も状況に応じて参加することもある。ホームの行事や利用者の状況を報告し、運営についても意見を求めている。3月の夜間を想定した避難訓練に家族も参加し、その検証で出された家族の意見を取り入れ、実際に避難器具を使用した訓練を行い確認している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは事務的な連絡や相談、またグループホーム管理者会議に参加し情報収集している。区からの入居相談や生活保護担当者の来訪もあり、必要に応じて話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「GH通信」を年に4回発行し、行事の案内や写真を載せて利用者の生活を報告している。職員の異動なども載せている。家族の来訪時には本人の様子を報告し、普段の暮らしぶりが分かるように写真を掲示している。緊急時や必要な時は連絡し、遠方の家族には電話で近況を報告している。	○	GH通信の発行頻度を増やす方向に期待し、毎月の近況を知らせる、個人宛の簡単なお便りなどきめ細やかな取り組みにも期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1～2回の家族懇談会に家族だけで話し合う場を設けている。アンケート用紙も常時用意しているがあまり活用されていないので、収集の方法を検討しているところである。「要望記録」に家族の意見などを記録し、それらを職員間で共有している。また苦情などは会議で対応を検討し改善に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員を支える体制をつくり、利用者との馴染みの関係に留意している。異動を極力抑え、ユニット間の異動はない。担当職員が辞める時に利用者に挨拶することもあるが、利用者の精神的なことも考え特に説明はしていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修は経験年数を考慮し受講を決め、費用は事業所が負担している。その他の研修は情報を流し個人参加としている。受講した内容は閲覧して共有している。運営者は職員の育成に力を入れ、毎月行っている法人の研修は参加率も高く、医療知識やケアについて学んでいる。また毎月の認知症ケア会議にも参加し、学ぶ環境が整えられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の「グループホーム管理者連絡会」の研修に職員も参加しているが、1～2回程度になっている。4箇所同業者の管理者が話し合い交換研修を計画中なので出来ることから始めたいと考えている。	○	同業者間での職員研修を通して、相互にサービスの質を高め合う機会の実現に期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して入居できるように見学を勧めている。家族の聞き取りから不安なことを解消し、会話を通して場の雰囲気に慣れてもらっている。他利用者との仲介や夜間なども集中的に見守り、本人が安心して生活に溶け込めるように関わっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事などの作業を一緒に行い、職員は料理の仕方、掃除、花や野菜の育て方を学んでいる。職員への気遣いもあり、励ましの言葉に元気づけられることもある。昔の話を聞き、テレビを観たりしてゆったりと共に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴などの情報から本人の意思を確かめ、食べもの、着るものなど、日常の中で少しでも選べるように本人の意向を大切にしている。職員は好きな野球観戦に同行し、誕生日には希望を叶えるように本人の意向を家族とも話し合っている。意思表示が困難な人には、行動のサインを見逃さないで思いを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	当初の計画作成時にアセスメントに基づく暫定の計画を作成し、3ヶ月以内に職員等の意見を踏まえ、計画を作り直している。アセスメントにはMDS方式とセンター方式を併用している。介護計画の同意書に家族の同意印をもらっているが、計画の説明は必ずしも十分ではない場合もある。	○	介護計画を作成・見直しを行なう際に、今後は今以上に、家族に説明して意見を求めることができるような機会を増やすよう期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース会議やカンファレンスの話し合いを基に、4～6ヶ月ごとに介護計画を見直している。入院や転倒による状態の変化がある場合などは、実情に合わせて随時の見直しも行なわれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一敷地内の特養やデイサービスと共同で行事の開催を行ったり、車を共同利用している。提携医療機関以外を受診する場合でも家族の事情に応じて通院支援を行なっている。その他、月2回の訪問理美容の利用や、特養の喫茶や移動売店、図書コーナーの利用ができるなど多機能性が活かされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は隣接する提携医療機関に4週に1度程度受診でき、ほとんどの利用者が提携医療機関で受診している。事情に応じて個別のかかりつけ医への通院支援も行なっている。また受診結果について必要に応じて家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、利用開始時に本人や家族は主治医からも説明を受けて指針を取り交わしている。指針の内容やホームの方針は職員全体で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員採用時の研修で拘束的表現の禁止などの研修を受ける。普段から利用者の誇りやプライバシーを尊重するための禁句集や処遇マニュアルが整備され研修も行なわれている。また気になる対応がある場合は都度職員を注意・指導している。家族等の面会簿も帳簿形式からカード形式に変更されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合を優先することなく、起床、食事時間、レクリエーション参加など利用者の体調ペースに合わせている。「もっと楽しく、もっと美味しく、もっと美しく」という法人の理念に基づき、本人らしくよりよい生活ができるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、配膳、下膳など利用者と会話しながら協力を得ている。食事は、落ち着いた音楽を流し、職員が利用者と一緒に会話しながら食事を楽しんでいる。各利用者が食事しやすい盛り付けの工夫がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の入浴が中心だが、毎日午前午後とも入浴でき、1人週2回以上入浴できている。入浴拒否はほとんどなく、歌を歌ったり談笑するなど楽しく入浴できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や、食事の準備、将棋やオセロ、散歩など利用者にあった個々の活動を楽しんでいる。隣接する特養の喫茶、移動売店、図書コーナーを自由に利用でき、楽しみごとの幅は広い。一人ひとりの誕生日におしゃれをして写真を撮るなど張り合いが持てるように工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	介護度の進展に伴い以前より減少したが、隣接する大きな公園に毎日のように散歩に出かけている。年間行事の企画を作り、花見や野外食、野球観戦、映画鑑賞を行なっている。隣接する特養の喫茶などにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの出入口に鍵はなく、1階へのエレベーターの利用も自由で、玄関は夜間のみ鍵をかけている。ユニット出入口に吊り下げ式のチャイムをつけ、出入りが分かるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年避難訓練を実施しており、夜間想定訓練も行なわれている。訓練には利用者家族や運営推進会議のメンバーである地域の方にも参加してもらっている。ホーム内にはスプリンクラーが整備されている。また職員の救急救命訓練も毎年行われ、DVDで記録している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は隣接する特養の栄養士が作成しており、カロリーや栄養バランスなどが調整されている。個々にあわせて食事量を調整して提供しており、介護日誌に食事や水分の摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く清潔であり、手作りのカレンダーや季節の飾り付けが施されている。写真や利用者の貼り絵などの作品も飾られ、いずれも落ち着いた雰囲気である。様々な場所にソファが置かれ、くつろげる場所が多い。温度・湿度、光や音なども気になる点はない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は比較的広く清潔である。各利用者の馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。収納スペースを確保し、利便性を高めている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。